

## 令和2年年頭訓示式

田中復興大臣及び横山副大臣年頭訓示

(令和2年1月7日(火) 10:00～10:15 於) 共用220会議室)

### 1. 田中大臣 訓示

皆様、あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

令和2年の年始に当たり、一言申し述べさせていただきます。

東日本大震災の発災、そして東京電力福島第一原発事故より9度目の正月を迎えました。

地震・津波被災地域では、住まいの復興やインフラ整備が順調に進み、復興は着実に進展しております。

原子力災害被災地域でも、帰還困難区域における特定復興再生拠点区域の整備が進み、3月には一部地域で先行解除が予定されるなど、復興・再生に向けた動きが本格的に始まっております。

一方、いまだ避難生活を続けながらこの正月を迎えられた方々もおられることを忘れてはなりません。

改めて被災者の皆様に思いをいたし、気を引き締めて職務に専念していただきたいと存じます。

ここで、復興庁職員諸君に3点お願いを申し上げます。

1点目は、復興・創生期間の最終年度における対応であります。

本年は復興・創生期間の最終年度を迎えます。これまでの10年間の復興期間の総仕上げと福島の本格的な復興・再生に向けて全力で取り組んでいただきたいと思います。

2点目であります。復興・創生期間後に向けた対応についてであります。

昨年末には被災自治体の御意見も踏まえ、復興・創生期間後における東日本大震災からの復興の基本方針の策定をさせていただきました。

この基本方針に基づき、次期通常国会に所要の法案を提出するとともに、個別事業の取り扱いや復興財源フレーム等の精査、検討を進めていただきたいと思います。

3点目は、情報発信の強化についてであります。

本年は東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控えています。

世界各国から寄せられた支援への感謝や被災地の姿を世界に発信するとともに、根強く残る風評の払拭に向けて、国内外への情報発信の強化に取り組んでいただきたいと思います。

私自らも国内外での被災地産品のトップセールスに努めてまいり

たいと思います。

本年は復興期間の節目となる重要な年となります。私自身が先頭に立って取り組んでまいりますので、皆様におかれましても引き続き現場主義を徹底し、被災者に寄り添いながらスピード感を持って柔軟な対応を心がけ、できることは全てやるという復興庁マインドの実践を心がけていただきたいと思います。

「東北の復興なくして日本の再生なし」、この決意のもと、1日も早い復旧・復興を目指し、ともに頑張っていこうではありませんか。

これをもちまして、年頭の訓示といたします。

ありがとうございました。

## 2. 横山副大臣 挨拶

あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

ただいま大臣からありました訓示3点をしっかりと肝に銘じ、本年もしっかりと復興に取り組んでまいります。

福島に限って言えば、ことしの春には「福島ロボットテストフィールド」の全面開所、そして、夏には「東日本大震災・原子力災害伝承館」の開所が控えております。

さらには、秋には東京オリンピック・パラリンピックを迎え、福島県あずま球場での野球、そしてソフトボールの試合が予定されております。

こうした行事を見ても、新たな段階を迎える福島県の復興、県民の皆様、そして日本国中、また、世界の目が福島の復興に向けられるときでもございます。

そうした中であって、私たちがしっかりと取り組まなければいけないのは、こうした一つ一つの行事、また復興に向けたさまざまなロードマップの完成に加え、やはり被災者の皆様方の気持ちに着実に復興に向かっている、また、希望を感じられるというふうに思ってもらえるかどうか、ここが大事だと私は感じております。

そのためには、復興庁のできることは何でもやるという総合力を全て発揮していただいて、そしてまた、一人一人が持っているお力を、また経験を、英知をこの復興のために使っていただきたいと思います。私も微力ながらその最前線で努力をさせていただきたいというふうに考えております。

ことし1年も皆様方とともに頑張らせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(以 上)